民話に対する児童・生徒の意識の実態と一考察
―長野県の民話を中心に―

滝澤　晃

一　はじめに

現在の中学校国語教科書では、民話は取り上げられることが少なくなっている。しかし、郷土教材としての民話の価値、発達段階を考慮した民話の扱い方などを考えたとき、中学生に民話を学ばせることは充分価値のあることだと判断する。また、長野県は、民話の宝庫と言われているように、長野県には民話がたくさんある。

そこで、長野県に住んでいる子供達が、実際に郷土の民話を、どの程度知り、どのように受け止めているかという実態を調べてみた。そして、その結果をもとに、どういう民話を教材化していくか、さらに、教材化の過程で考えなければならないのは何かを考察し、指導計画を立てる際の資料にしたいと考えた。

二　アンケートの方法

アンケートは、長野県下各地の小・中・高等学校の児童・生徒にお願いした。まず、予備調査として、小学校二校（六十二名）・高等学校一校（三十二名）、計三校（計九十四名）、次に本調査として、小学校五校（百五十九名）、中学校五校（三百九十八名）、高等学校一校（六十六名）、計十一校（六百二十三名）にお願いした。学校名及び調査対象学年は、次の通りである。

《予備調査》

戸倉町立戸倉小学校（四年・二十九名）

長野市立通明小学校（四年・三十三名）

長野県松本美須々ケ丘高等学校（二年・三十二名）

《本調査》

坂井村立坂井小学校（二年・十四名）

中野市立中野小学校（二年・三十三名）

長野市立下氷飽小学校（五年・三十九名）

長野市立加茂小学校（五年・三十九名）
長野市立吉里小学校（五年・三十四名）
伊那市立東部中学校（一年三十二名・二年三十六名）
高遠町立高遠中学校（二年三十一名・三年三十七名）
更埴市立埴生中学校（二年二十九名・三年六十名）
大町市立第一中学校（一年三十五名・三年三十二名）
長野市立三陽中学校（一年三十七名・二年三十五名・三年三十四名）
長野県松本美須々ケ丘高等学校（二年六十六名）

三　アンケートの形式・内容

『長野県の民話』（日本児童文学者協会編・昭和五十六年・偕成社刊）、『長野のむかし話』（長野県国語教育学会編・昭和五十一年・日本標準刊）、『日本の民話』10信濃・越中篇（「信濃の民話」編集委員会・昭和五十二年・未来社刊）の三冊の本を参考にしながら、長野県に伝わる民話の中で、知名度が高いと思われる二十四の話を取り上げ、それらに対する意識をたずねた。

ただ、その民話の取り上げ方が主観的である恐れもあり、本当によく知られているかどうか不明な部分もあるので、あらかじめ《別表1》で示すような予備調査を三校を対象に実施することにした。

その結果をもとに本調査を行った。本調査を行うに当たっては、《別表2》に示すように、調査項目の部分的変更を行った。すなわち、次の二点である。一つは、1で取り上げた民話のうち、「雪女」と「花さかじいさん」は、長野県独自の民話とは考えにくいと判断したので削除したことであり、二つ目は、調査項目3以下は「おばすて山」について少し詳しくたずねたことである。

四　アンケートの処理・集計

処理に当たって、1・2については、予備調査の三校を含めた全人数について処理をした。本調査の3については、予備調査にはなかったので、本調査の十一校の人数について処理をした。予備調査の3と本調査の4は、同じ内容なので、全人数について処理をした。集計結果については、《別表3》①②のようである。

《別表１》予備調査　　長野県のお話アンケート

学校名（　　）小・中学校　［　　］年　（男・女）

＿＿＿のところは、どちらかに○をしてください。

1．下のお話は、長野県のお話です。（　）の中につぎのように番号を入れていってください。

・知らないお話→１
・だい名は、聞いたことがあるけれど、どんなお話かは知らないお話→２
・だい名も知っているし、どんなお話かも知っているお話→３

（　）だいだらぼっち（でいらんぼう）
（　）山鳥の尾（八面大王）
（　）早太郎（早太郎犬と人身御供）
（　）黒姫物語
（　）寝ざめの床の主
（　）戸隠の鬼女
（　）まったらこうよ
（　）親子ザル（親をしたうサル）
（　）おみわたり
（　）花さかじいさん
（　）つつじのむすめ（つつじのおとめ）
（　）大力の豊後（大男　尾科文吾の話）
（　）おばすて山（年よりの知恵）
（　）ものぐさ太郎
（　）へをするおよめさん
（　）小泉小太郎（泉小太郎）
（　）久米路橋（もの言わぬ娘）
（　）望月の駒
（　）雪女
（　）甲賀三郎（龍になった甲賀三郎）
（　）めし食わぬよめ
（　）三升めしをくったねこ
（　）玄蕃之丞（桔梗原のきつね）
（　）法蔵寺のねこ（ねこ檀家）

上で３と書いたお話のなかで、好きだなあと思っているお話には、３のところを○でかこんでください。

2．知っているお話をどのようにして知りましたか。（　）に○をしてから［　］に答えてください。

（　）１．人から聞いた。　☆だれから聞きましたか。→［　　］
（　）２．本で読んだ。
（　）３．テレビ・えいが・アニメなどで見た。
（　）４．そのほか　☆どうやって知りましたか。→［　　］

3．１で３と答えたお話が、どんなお話なのか、かんたんに教えてください。ひとつでもふたつでもいいです。書くところが、たりなかったら、うらに書いてください。

お話のだい名［　　］ どんなお話ですか。
お話のだい名［　　］ どんなお話ですか。

《別表２》本調査　　**長野県のお話アンケート**

学校名（　　）小・中学校　［　］年　氏名＿＿＿＿＿＿（男・女）

〰〰のところは、どちらかに○をしてください。

１については、予備調査と同じ。ただし、取り上げた民話のうち、「雪女」と「花さかじいさん」は、長野県独自の民話とは考えにくいと判断したので削除した。

２．知っているお話をどのようにして知りましたか。（　）に○をしてください。
［　］にはことばで答えてください。

（　）１．人から聞いた。☆だれから聞きましたか。→（　）①お父さんやお母さん
（　）②おじいさんやおばあさん
（　）③しんせきの人
（　）④先生
（　）⑤そのほか→だれですか［　　］

（　）２．本で読んだ。☆どういう本で読みましたか。→［　　］

（　）３．テレビ・映画・アニメ・ビデオ・紙芝居などで見た。

（　）４．そのほか　☆どうやって知りましたか。→［　　］

３．１で「おばすて山」に３と書いた人にききます。

①どのようにして「おばすて山」のお話を知りましたか。

②どんなお話か、かんたんに教えてください。

③「おばすて山」のお話についてどう思いますか。

４．「おばすて山」のほかに１で３と答えたお話が、どんなお話のなのか、かんたんに教えてください。

お話のだい名［　　］ どんなお話ですか。

《別表３》①　　**長野県のお話アンケート集計結果**

アンケート対象人数　全体（予備調査＋本調査）７１７人　小学生２２１人
中学生３９８人
高校生　９８人

1．下のお話は、長野県のお話です。（　）の中につぎのように番号を入れていってください。

・知らないお話→１

・題名は、聞いたことがあるけど、どんなお話かは知らないお話→２

・題名も知っているし、どんなお話かも知っているお話→３

・３と書いたお話の中で、好きだなあと思っているお話には、３の所を○で囲んで下さい。

		全体				
		2+3	2	3	○	1
英雄伝	おばすて山（年よりの知恵）	634	246	388	146	83
	だいだらぼっち（でいらんぼう）	596	470	126	33	121
	ものぐさ太郎	400	300	100	19	317
	早太郎（早太郎犬と人身御供）	128	100	28	19	589
	小泉小太郎（泉小太郎）	121	89	32	12	596
	甲賀三郎（竜になった甲賀三郎）	93	63	30	5	624
	大力の豊後（大男　尾科文吾の話）	38	28	10	2	679
自然	黒姫物語	196	163	33	12	521
	おみわたり	89	70	19	3	628
	寝ざめの床の主	88	78	10	1	629
残酷	久米路橋（もの言わぬ娘）	84	62	22	7	633
	戸隠の鬼女	97	73	24	9	620
	まったらこうよ	25	19	6	0	692
	つつじのむすめ（つつじのおとめ）	50	41	9	2	667
おもしろい話	へをするおよめさん	257	110	147	44	460
	めし食わぬよめ	238	101	137	35	479
動物	山鳥の尾（八面大王）	84	46	38	7	633
	望月の駒	47	37	10	2	670
	親子ザル	119	74	45	13	598
	三升めしをくったねこ	57	48	9	2	660
	玄蕃之丞（桔梗原のきつね）	50	41	5	1	667
	法蔵寺のねこ（ねこ檀家）	67	54	13	7	650

1．下のお話は、長野県のお話です。（　）の中につぎのように番号を入れていってください。

・知らないお話→1

・題名は、聞いたことがあるけど、どんなお話かは知らないお話→2

・題名も知っているし、どんなお話かも知っているお話→3

・3と書いたお話の中で、好きだなあと思っているお話には、3の所を○で囲んで下さい。

		小学生				
		2+3	2	3	○	1
英雄伝	おばすて山（年よりの知恵）	172	63	109	54	49
	だいだらぼっち（でいらんぼう）	169	118	51	16	52
	ものぐさ太郎	48	30	18	8	173
	早太郎（早太郎犬と人身御供）	39	26	13	6	182
	小泉小太郎（泉小太郎）	35	28	7	2	186
	甲賀三郎（竜になった甲賀三郎）	45	29	16	5	176
	大力の豊後（大男　尾科文吾の話）	24	18	6	2	197
自然	黒姫物語	101	85	16	9	120
	おみわたり	17	14	3	0	204
	寝ざめの床の主	32	26	6	1	189
残酷	久米路橋（もの言わぬ娘）	33	27	6	1	188
	戸隠の鬼女	36	23	13	5	185
	まったらこうよ	12	8	4	0	209
	つつじのむすめ（つつじのおとめ）	34	29	5	1	187
おもしろい話	へをするおよめさん	90	36	54	14	131
	めし食わぬよめ	99	37	62	23	122
動物	山鳥の尾（八面大王）	24	20	4	2	197
	望月の駒	28	20	8	1	193
	親子ザル	41	36	5	1	180
	三升めしをくったねこ	32	27	5	1	189
	玄蕃之丞（桔梗原のきつね）	25	21	4	0	196
	法蔵寺のねこ（ねこ檀家）	38	27	11	5	183

1．下のお話は、長野県のお話です。（　）の中につぎのように番号を入れていってください。

・知らないお話→1

・題名は、聞いたことがあるけど、どんなお話かは知らないお話→2

・題名も知っているし、どんなお話かも知っているお話→3

・3と書いたお話の中で、好きだなあと思っているお話には、3の所を○で囲んで下さい。

		中学生				
		2+3	2	3	○	1
英雄伝	おばすて山（年よりの知恵）	364	155	209	80	34
	だいだらぼっち（でいらんぼう）	340	283	57	16	58
	ものぐさ太郎	264	206	58	9	134
	早太郎（早太郎犬と人身御供）	75	64	11	12	323
	小泉小太郎（泉小太郎）	63	41	22	10	335
	甲賀三郎（竜になった甲賀三郎）	39	28	11	0	359
	大力の豊後（大男　尾科文吾の話）	11	7	4	0	387
自然	黒姫物語	84	69	15	3	314
	おみわたり	57	45	12	3	341
	寝ざめの床の主	29	28	11	0	369
残酷	久米路橋（もの言わぬ娘）	42	27	15	6	356
	戸隠の鬼女	40	33	7	3	358
	まったらこうよ	10	8	2	0	388
	つつじのむすめ（つつじのおとめ）	14	11	3	1	384
おもしろい話	へをするおよめさん	132	59	73	25	266
	めし食わぬよめ	109	50	59	10	289
動物	山鳥の尾（八面大王）	29	22	7	3	369
	望月の駒	12	12	0	0	386
	親子ザル	71	35	36	12	327
	三升めしをくったねこ	18	15	3	1	380
	玄蕃之丞（桔梗原のきつね）	16	12	4	0	382
	法蔵寺のねこ（ねこ檀家）	17	16	1	1	381

1．下のお話は、長野県のお話です。（　）の中につぎのように番号を入れていってください。

・知らないお話→1

・題名は、聞いたことがあるけど、どんなお話かは知らないお話→2

・題名も知っているし、どんなお話かも知っているお話→3

・3と書いたお話の中で、好きだなあと思っているお話には、3の所を○で囲んで下さい。

		高校生				
		2+3	2	3	○	1
英雄伝	おばすて山（年よりの知恵）	98	28	70	-12	0
	だいだらぼっち（でいらんぼう）	87	69	18	1	11
	ものぐさ太郎	88	64	24	2	10
	早太郎（早太郎犬と人身御供）	14	10	4	1	84
	小泉小太郎（泉小太郎）	23	20	3	0	75
	甲賀三郎（竜になった甲賀三郎）	9	6	3	0	89
	大力の豊後（大男　尾科文吾の話）	3	3	0	0	95
自然	黒姫物語	11	9	2	0	87
	おみわたり	15	11	4	0	83
	寝ざめの床の主	27	24	3	0	71
残酷	久米路橋（もの言わぬ娘）	9	8	1	0	89
	戸隠の鬼女	21	17	4	1	77
	まったらこうよ	3	3	0	0	95
	つつじのむすめ（つつじのおとめ）	2	1	1	0	96
おもしろい話	へをするおよめさん	35	15	20	5	63
	めし食わぬよめ	30	14	16	2	68
動物	山烏の尾（八面大王）	31	27	4	2	67
	望月の駒	7	5	2	1	91
	親子ザル	7	3	4	0	91
	三升めしをくったねこ	7	6	1	0	91
	玄蕃之丞（桔梗原のきつね）	9	8	1	1	89
	法蔵寺のねこ（ねこ檀家）	12	11	1	1	87

2．知っているお話をどのようにして知りましたか。（　）に○をしてから［　］に答えてください。

1.人から聞いた　２８８人（全体の４０.２％）　①～⑤は複数回答

	全体	①父や母	②祖父母	③しんせきの人	④先生	⑤その他
人から聞いた	288	117 (40.6%)	71 (24.7%)	12 (4.2%)	152 (52.8%)	友達12 バスガイド3 妹1 なんとなく1
小学生	65	39	29	4	15	
中学生	192	62	35	7	123	
高校生	31	16	7	1	14	

（①～⑤の( )内の％は回答者２８８人に対する割合）

2.本で読んだ　３１９人（全体の４４.５％）

	全体	昔話・民話などの本	絵本	道徳の本	こわい話	休み帳	長野見学のしおり	笑い話	マンガの本	あけぼの
本で読んだ	319	88	27	14	7	7	6	3	1	1

3.テレビ・映画・アニメなどで見た　２４７人（全体の３４.４％）

4.その他　３５人

	人数		人数
劇でやったり見たりした	7	ゲーム	1
お祭りで知った	5	神社に行った（早太郎）	1
歌で歌った	3	お寺で知った	1
旅行に行ってパンフレットや看板で知った	2	塩尻駅の西口	1
有線放送	2	小学校のお昼の放送	1
黒姫童話館	2	小学校の授業で調べた	1
弟の幼稚園合同音楽会	1	古典の授業でやった（高校生）	1
木の札	1	なぜか知っている	2
		いつの間にか知っている	1

《別表３》②

アンケート対象人数　全体（本調査）６２３人　小学生１５９人
中学生３９８人
高校生　６６人

３．１で「おばすて山」に３と書いた人に聞きます。→３８８人

①どのようにして「おばすて山」のお話を知りましたか。

1.人から聞いた

	全体	父や母(家の人)	祖父母	先生	バスガイド	友達	誰か
人から聞いた	130 (33.5%)	30	18	59	2	1	21

2.本で読んだ

	全体	本で読んだ	道徳の本	絵本	休み帳	マンガ
本で読んだ	100 (25.8%)	89	4	4	2	1

3.テレビなど

	全体	テレビ	紙芝居	映画
テレビなど	66 (17.0%)	57	7	2

4.その他

小学校のときの道徳の授業	24(6.2%)	有線放送	1
古典の授業（高校生）	20(5.2%)	歴史観	1
小学校のときの社会見学	11(2.8%)	旅行に行ったとき	1
高速道路のサービスエリア	6	人形劇	1
おばすての近くをドライブしていたとき知人から	1	なぜか知っていた	3
おばすて駅を通ったとき	1		

②どんな話か、かんたんに教えてください。

回答した人数　３０４人

	回答（全体）	無回答	難題型	枝折り型	複合型（難題型＋枝折り型）	その他（左のどの型にもあてはまらないもの）
全体	304	319	161	9	19	115
小学生	59	100	18	2	4	35
中学生	200	198	120	7	15	58
高校生	45	21	23	0	0	22

③「おばすて山」のお話についてどう思いますか。

回答した人数　２７５人

	回答（全体）	無回答	同情型	感動型A	感動型B	単純感動型	批判型	単純批判型	教訓型	疑問型
全体	275	348	47	54	14	70	47	7	43	9
小学生	56	103	27	11	4	8	1	1	4	0
中学生	180	218	15	36	10	53	38	4	28	9
高校生	39	27	5	7	0	9	8	2	11	0

☆同情型　→　かわいそう　かなしい　など

☆感動型A　→　ばあさんの知恵はすごい　など

☆感動型B　→　やさしいむすこだ　など

☆単純感動型　→　いい話だ　よかった　など

☆批判型　→　ひどい殿様だ　年寄りを捨てるなんてひどい　など

☆単純批判型　→　おもしろくない　興味なし　つまらない　くだらない　現実味に掛ける　など

☆教訓型　→　年よりは大切にすべきだ　今の時代背景をうつしている　など

☆疑問型　→　どうして年よりを捨てるのか不思議　なぜ長野県に残っているのかわからない　など

アンケート対象人数　全体（予備調査+本調査）７１７人　　小学生２２１人
中学生３９８人
高校生　９８人

4.「おばすて山」のほかに１と３と答えたお話が、どんなお話なのか、かんたんに教えてください。

回答した人数２５７人

	回答（全体）	無回答
全体	257	460
小学生	117	104
中学生	88	310
高校生	52	46

回答があったお話の題名と人数

題名	人数			
	全体	小学生	中学生	高校生
めしくわぬよめ	59	31	24	4
だいだらぼっち	37	20	13	4
へをするおよめさん	33	12	17	4
親子ザル	17	0	14	3
ものぐさ太郎	16	4	8	4
早太郎	13	3	8	2
久米路橋	9	2	7	0
黒姫物語	8	5	3	0
小泉小太郎	6	1	5	0
戸隠の鬼女	5	3	1	1
山鳥の尾（八面大王）	4	0	1	3
おみわたり	4	0	2	2
甲賀三郎	2	2	0	0
三升めしをくったねこ	1	1	0	0
玄蕃之丞	1	0	0	1
法蔵寺のねこ	1	0	0	1

五　考察

以上のアンケートの処理・集計結果をもとに、次に示すようにまず項目ごとに考察をし、次いで全体的な考察を加えた。

（1）調査項目1より

《子供達に知られている話について》

圧倒的に知られている話は、「おばすて山」「だいだらぼっち」「ものぐさ太郎」である。それぞれ、少なくとも六割以上が知っているという回答である。次に、「へをするおよめさん」「めしくわぬよめ」が三割台で続き、そのあとに「黒姫物語」が二割台で続いている。このあたりまでは、よく知られた話として考えてもいいのではないだろうか。そのあとは、「早太郎」「小泉小太郎」「親子ザル」「戸隠の鬼女」「甲賀三郎」「おみわたり」「寝覚めの床の主」「久米路橋」「山鳥の尾」になると一割台の回答である。

このアンケートから見る限りでは、「おばすて山」が長野県の子供達にとって、最も知られた話である。また好きだなあと思っている子供の数が、他の話に比べ圧倒的に多いということは、長野県の多くの子供達にとって「おばすて山」は、身近な話として意識されていることがわかる。

また、「だいだらぼっち」「ものぐさ太郎」「早太郎」「小泉小太郎」などの英雄伝も広く知られている。英雄に対するあこがれ的な思いが、現れているのであろう。

「へをするおよめさん」「めしくわぬよめ」といった英雄伝とは違った傾向の話も、比較的多く知られているのは、「へ」とか「頭に口がある」とかという表面的なおもしろさに注目しているからだと思われる。

「久米路橋（もの言わぬむすめ）」「つつじのむすめ」は、自分のために父親を殺されたり、自分が殺されたりする残酷な話であり、言わばこわいもの見たさの心理が働いているのかもしれない。

これら「だいだらぼっち」系統の話、「へをするおよめさん」系統の話、「久米路橋」系統の話の三つの話の系統に現れる主人公が、男であるか、女であるか、だんなであるか、よめであるかということは、実際の指導に当たっては、生徒に教材をもとに考えさせていくには大きな手掛かりの一つになるように思われる。

英雄伝で活躍する人は、男が多いということは、昔から民衆の意識の中に、英雄として活躍する人は男であるというイメージが強かったからではないだろうか。また、へをしたり、めしを食わないのが、なぜよめなのかについては、昔の生活が食べ物に困っていて、口減らしをしなければならないといった状況

を考えると、家族の中で弱い立場におかれた「よめ」「女」に意識がいったからではないだろうか。そういう民衆の意識が反映されてきているのではないかと考えられる。

次に、「山鳥の尾」「望月の駒」「親子ザル」「三升めしをくったねこ」「玄審之丞」「法蔵寺のねこ」などの動物が出てくる話は、動物との触れ合いが多い長野県の特色を示している。そして、動物を通して人間社会を描きたいということを示しているように思われる。さらに、一地方の動物の民話にとどまらず、民話教材のあとの学習のつながりとして、童話とか少年向けの動物文学に発展させていくことも考えられる。ただ、このような動物が出てくる話に関しては、思ったより子供達に知られていないこともわかる。しかし、その中でも、「親子ザル」「山鳥の尾」が比較的知られているのは、アンケート対象校のうちそれぞれの地元の伊那地方、安曇野地方の学校が含まれているという影響がある。

「おばすて山」「ものぐさ太郎」「久米格橋」「めしくわぬよめ」「三升めしをくったねこ」などに、共通することは、食べ物と家族の生活との接点からくる話であるということである。食べ物に困っていたという昔の民衆の生活が反映された話の内容となっている。

なお、本稿では学校ごとの集計結果は示さなかったが、地域別の特徴について、一言付け加えておく。

「おばすて山」「だいだらぼっち」といった全県的によく知られた話については、特に地域別の特徴は見られない。その理由として、「おばすて山」という山だけをみると、更級にある山に限られるが、話としては類似のものが各地にあったということが考えられる。また、民話の本やテレビをみても、「おばすて山」「だいだらぼっち」は、全国的に共通のものとして取り上げられており、自然と知る状況や環境にあるということもあろう。

それに対して、動物が出てくる話のところでも触れたが、「親子ザル」「山鳥の尾」が、それぞれ伊那地方、安曇野地方の学校の生徒によく知られているように、当然のことながらその地域の話は、地元の学校の子供達によく知られている。このことは、自然に囲まれているなどの地域的な環境の影響があるのではないか。

具体例をあげると、北信地方の話である「黒姫物語」は、他の地域に比べ、北信の学校の子供達に比較的よく知られているし、南信地方の話である「早太郎」は、他の地域に比べ、南信の学校の子供達に比較的よく知られていることなどである。

以上のように、子供達に知られている話を見てきたが、子供達をめぐるさまざまな状況が影響していることがわかる。

（2）調査項目2より

《どのようにして話を知ったか》

知っている話をどのように知ったかについて、「人から聞いた」「本で読んだ」「テレビなどで見た」の三つを比べると、それほど極端な違いは見られない。それぞれの内容について、以下簡単に述べてみる。

① 「人から聞いた」について見てみると、「先生」が一番多い。これは、「おばすて山」が、小学校の道徳の本に採録されていたり、その他の民話についても折に触れて読み聞かせなどをしているためと考えられる。長野県下においては、小学校低学年を中心とした読み聞かせが伝統的に行われていることが、影響を与えているのではないだろうか。次に「父や母」「祖父母」の順になっている。「父や母」「祖父母」から聞いた人数は、アンケート対象人数全体からみると、それほど多い人数ではないが、予想したよりは多い数字である。これは、今の時代でも口伝えでお話が伝わるという形が残っていることを示している。

② 「本で読んだ」について見てみると、「昔話・民話の本」が一番多く、ついで「絵本」となっている。これは、日常の子供達の読書生活が反映されていると考えていいだろう。「道徳の本」「休み帳」「長野見学のしおり」などを見ると、学校からの働きかけによっても知るということがわかる。

③ 「テレビ・映画・アニメなどで見た」がかなりの人数になっている。これは、現代の映像文化の影響の現れとみることができる。

④ 「その他」の中で、「劇でやったり見たりした」「歌で歌った」「小学校のお昼の放送」「小学校の授業で調べた」に共通することは、学校でいろいろな活動をする中で、知っていくということがわかる。また、「お祭りで知った」「旅行に行ってパンフレットや看板で知った」「有線放送」「黒姫童話館」「神社に行った」「お寺で知った」「塩尻駅の西口」というように学校に限らず、地域での活動や地域で保存しておく物からも知っていくことがわかる。「なぜか知っている」「いつの間にか知っている」ということは、記憶があいまいであると考えられる一方、逆に知らず知らずのうちに、小さいときから日常生活において、家族の間で語られているということの反映なのではないだろうか。

このように、民話をどのように知るかということに関しては、「学校」「地域」「家庭」それぞれのところで、まんべんなく広く目にし、耳にする機会を子供達は得ていることがわかる。

（3）調査項目3より

《「おばすて山」の話について》

①より〔どのようにして「おばすて山」の話を知ったか〕

子供達にたずねている内容が、調査項目2のうちの、特に「おばすて山」についてということなので、調査項目2とだぶっている。すなわち、集計結果も同じように「人から聞いた」「本で読んだ」「テレビなどで見た」といういずれの回答もあった。ただ、話の対象が「おばすて山」に限られているので、回答の「その他」には、2で見られなかった「授業」「社会見学」「高速道路のサービスエリア」「おばすて駅」などと「おばすて山」に関する具体的な内容もあげられていた。

②より〔「おばすて山」の話の内容について〕

「おばすて山」の話は、「難題型」「枝折り型」「複合型」「その他」に分けることができる。

「難題型」というのは、隣の国から難題をつきつけられ、年寄りの知恵によって国が助かるという内容のものである。「枝折り型」というのは、息子か年寄りの親を山に捨てに行く途中、親が息子の帰り道がわかるようにと枝を折っていたことを知り、親を連れ戻すという内容のものである。「難題型」と「枝折り型」の内容を、両方合わせ持っているものは「複合型」と言える。以上のどの型にも当てはまらない内容のものは「その他」とした。その他の中で多く見られるのは、おばあさんが山の中に捨てられる話というようなものである。

集計結果を見てわかることは、「難題型」がかなり多いということである。これは、「おばすて山」の話というと、単に年寄りを山に捨てにいくという話ではなく、難題が年寄りの知恵によって解かれる話だと思っている子供達が多いということを示している。つまり、子供達が思っている「おばすて山」の話は、子供達の意識の中では、多様な内容を含んでいるが、その中心は難題を軸に展開する話であろう。

③より〔「おばすて山」の話をどう思うか〕

回答を内容によって八つの型に分けてみた。それは、《別表3》②にあるとおりである。

調査結果を全体として見てみると、単純感動型が一番多く、続いて感動型A・同情型・批判型・教訓型がそれぞれ同じくらいの数字で続いている。「おばすて山」の話について、全体的な傾向としては、好意をもっている子供達が多いことがわかる。小・中・高別に見ると、発達段階による特徴がよく現れている。小学生では、同情型が最も多く、批判型や教訓型が少ないのに対して、中学生になると逆に批判型や教訓型は多くなり、同情

型はそれほど多くはない。小学生で、年寄りを山に捨てるという内容に対して、かわいそうという同情の思いが多いということは、話の内容の表面的なとらえにとどまっていると考えられる。中学生になると、おばあさんの知恵はすごいと感動したり、年寄りを山に捨てるという内容に対して、ひどいとか人間としてしてはならないことだというような批判的な思いや年寄りは大切にすべきだというような教訓めいた思いを抱くようになる。これは、中学生の発達段階として、自我意識が強くなってくることによって、民話の奥にある民衆の思想や願いにまで触れていると言えよう。さらに、高校生になると、「今の時代背景をうつしている」「今の政治家に読ませてやりたい」などといったより鋭い角度からの教訓や批判が出てきている。このように、小学生・中学生・高校生という発達段階の違いが、「おばすて山」に対する思いにはっきりと出ていると言えよう。

(4) 調査項目4より
《知っている話の内容について》

調査項目1が、話の題名から知っているかどうかをたずねたのに対し、ここではもう一歩突っ込んでその話の内容を書かせた。話の内容がよくわかっていないと回答することが難しくなるという形になっている。そのため、回答した子供達の人数は少ないが、ここでのデータは、子供達にとって知られている話としては、より確実性が高いものと考えてよいであろう。

「めしくわぬよめ」「だいだらぼっち」「へをするおよめさん」が最も多く、三十人台から五十人台の子供達の回答があり、続いて「親子ザル」「ものぐさ太郎」「早太郎」の回答が十人を越えた。その他、十の民話について回答があったが、いずれも一桁の人数であった。

「めしくわぬよめ」「だいだらぼっち」「へをするおよめさん」「ものぐさ太郎」については、調査項目1でも多かったので、関連性があると言える。

「親子ザル」「早太郎」については、ともに南信地方の話であり、調査項目1の考察でも触れたように、南信地方の学校の子供達の回答が多い。その地域の話は、地元の子供達にとってよく知られ、親しみをもたれていることがわかる。「親子ザル」については、話そのものが感動的なものであり、「早太郎」については、その地域に神社があって詳しく説明されているということもかかわっているであろう。

(5) 全体的な考察

ここでは、調査項目1から4までの考察を踏まえ、次の三つの観点から全体的な考察をしていきたい。

①長野県の子供達と民話とのかかわりについて考察する。
②民話の教材化・指導の可能性について考察する。
③その中でも、特に「おばすて山」の話を中心に考察する。

まず、①の長野県の子供達がどの程度民話を知っているかということは、調査項目1に見られるように、六割以上が知っているという回答である「おばすて山」「だいだらぼっち」「ものぐさ太郎」は別にして、全体的に思ったより知っていないようである。長野県は、民話の宝庫だと言われているが、それゆえそこに住む子供達にとって、もっとさまざまな民話がよく知られ、身近に感じられていてもいいのではないだろうか。このような実態である理由を、調査項目2の集計結果から探ってみたい。すなわち、民話をどのように知るかということに関しては、「学校」「地域」「家庭」それぞれのところで、まんべんなく広く目にし耳にする機会を子供達は得ているということは、どういうことを意味しているのだろうか。

ある程度は民話が知られているが、「学校」でも特に取り立てて民話の学習をしているようには思えないし、「地域」においても資料館などの活用によって民話を残していこうとしている気配もあまり感じられないし、「家庭」においても民話が大事にされて子供達に語られているとは必ずしも言えない状態にあるのではないだろうか。つまり、民話を特に取り立てて扱う活動が「学校」でも「地域」でも「家庭」でも、行われていないということではないだろうか。

調査項目2の考察だけを見れば、「学校」「地域」「家庭」それぞれが、民話を子供達に知らせる役割をそれなりに果たしているように受け止めがちであるが、実はもっとそれぞれが自覚して役割を果たしていくべきではないだろうか。例えば、「学校」においては、授業はもちろん生徒会活動・クラブ活動・行事などでももっと民話を取り上げた活動をしてもいいのではないだろうか。また、「地域」でもその地域に伝わる民話などを大切にして、次の世代に広く伝えていこうとする活動を取り入れるべきではないだろうか。さらに、「家庭」でも子供達に地元の民話などを日常生活の中で語ったり、あるいは会話の話題として取り上げる機会を一層もつべきであろう。

次に、②の民話の教材化・指導の可能性を、調査項目1から見ていきたい。

調査項目1で取り上げた二十二の長野県の話をその内容によって、アンケート集計結果の表にあるように、「英雄伝」「自然」「残酷」「おもしろい話」「動物」の五つに分けることができる。それぞれの分類に属する複数の民話の比較を通して、内容の意味するものを考えることができる。例えば、英雄伝を読み比べてその英雄の特徴を比べたり、動物の出てくる民話から動物と人間とのかかわりを考えることもできる。

また、「久米路橋」と「もの言わぬ娘」のように、同じ内容

であっても民話の題名が違っていたり、同じ題名であっても、その内容に違いがあったりする。特に後者の内容の違いに焦点を当て、考えさせることができる。「おばすて山」については、③で詳しく述べるが、「だいだらぼっち」についても地域によって、かなり内容に違いが見られるので、その違いからそれぞれの意味するものを考えることができる。また、松谷みよ子の「竜の子太郎」は、「小泉小太郎」をもとにつくられたと言われているが、二つの話の内容の違いを調べて、そこから両方の主題を考えてみることもできる。

さらに、その民話が成立した背景を探るということもできる。例えば、「へをするおよめさん」「めし食わぬよめ」の表面上のおもしろさだけをみるのではなく、前述したようになぜ「よめ」なのか考えることもできる。また、その二つの話に加え、「おばすて山」「ものぐさ太郎」「久米路橋」「三升めしを食ったねこ」は、いずれも食べ物と関係している。これも前述したように、なぜ、食べ物に関係してくるのか考えることもできる。

次に③について、考察する。

長野県の子供達にとって「おばすて山」が最もよく知られており、身近な話として意識されているということがわかる。

しかも、その意識されている話の内容を見ると、すでに述べたように単に年寄りを山に捨てるということだけではなく、多様なとらえ方をしている子供達がかなり多いことがわかる。

このことを、「おばすて山」の話を教材化していくときに、生かしていきたい。例えば、選択国語において、民話の調査活動を行うときの観点として、「おばすて山」の話に限らず、同じ民話であっても登場人物や話の展開に違いがある場合、それを調査しながら研究することができる。また、必修授業においても、子供達に「おばすて山」の話を与えるとき、一つのまとまった話としてだけではなく、いくつかの話を比較して考えさせることもできる。

「どのようにして、『おばすて山』の話を知ったか」のところでわかったように、子供達は「学校」「地域」「家庭」それぞれのところで、まんべんなく広く目にし、耳にする機会を得ている。このことは、特に選択国語の調査活動などにおいて「地域」や「家庭」を活用することができるのではないだろうか。また、必修授業で扱うことによって、家庭での話題にものぼり、地域を見直すきっかけになることも考えられる。

「『おばすて山』の話をどう思うか」で、中学生は、おばあさんの知恵はすごいと感動したり、年寄りを山に捨てることに対してひどいとか人間としてしてはならないことだというような批判的な思いや年寄りは大切にすべきだというような教訓めいた思いを抱いたように、自我意識が強くなってくることによる感想があった。実践においては、「おばすて山」が「親子の愛情」「年寄りの知恵」「殿様と百姓」といった民衆の思想や

願いの込められたものだということを生かし、中学生のもつ自我意識に触れた展開になるようにしていきたい。

六　おわりに

以上のように、今回、長野県における児童・生徒の民話に対する意識の実態を調べ、その考察をしたことは、どういう民話をどう教材化して実践していくかということに大変有効であった。

平成十四年度から実施される学習指導要領に示されている選択幅拡大や総合的な学習の導入にともなって、その内容の一つの試みとして、民話の実践を積み重ねていこうと思っている。また、民話に限らず、例えば地域に残っている文化財（寺・神社・名所・旧跡など）にかかわるものを教材として発掘し、実践していくことも可能であろう。

（たきざわ　あきら　　戸倉上山田中学校教諭）